
蒼海の黒狼

八森ケン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

蒼海の黒狼

【Zマーク】

N3189F

【作者名】

八森ケン

【あらすじ】

どいまでも続く蒼海、その蒼海に名を轟かせた少年とその仲間の物語。

プロローグ

海面を滑るように航走する船はしがある。

大きさは30メートルほどで、船体は漆黒に塗装されていた。
そんな船の甲板に一つの人影があつた。

歳は18、19ほど、肌はよく日に焼けていて、白い半袖の服の
上に黒のジャケットをはおり、黒のズボンをはいていた。姿勢はま
だ幼さを残しているが整つていて、船体と同じ漆黒の髪に黒い瞳を
した少年だ。その瞳は、どこまでも続く蒼海を見ていた。

「何をしているんだ、おまえ」

不意に少年に声をかけ、近づいてくる人影がある。
肩あたりまで伸ばした薄い茶髪で眼鏡をかけた碧眼の少年より少
し年上の感じのする青年だ。容姿は少年に負けず整つていて。しか
し格好は日が高いせいいかなり暑いというのに、緑のロングコート
をはおつたかなり変わった格好だ。

「見てわからないか、オルカ」

「俺の目が節穴なのか、海を眺めているようこしか見えないのだが」

「…………そのとおりだ」

少年に『オルカ』と呼ばれた青年はため息とともに額を押された。

「…………こんなところで海を眺めているくらい暇なら、少しは
こちらの仕事を手伝つてほしいものだが」

「…………といひで俺に何かよつでもあるんぢやないか

「む、うまく話しを変えたな・・・・・まあいい」

「ふう」とオルカは一息ついてからすっと姿勢を直し少年に向かつて敬礼をした。

「艦長、右舷後方8時の方方向に艦影2を確認。うち一隻は海賊ジンク一味と思われます。どうやらもう片方の船を襲つてこようですがいかがいたしますか」

今度は少年がため息とともに額を押さえた。
しばらくその状態で、ぶつぶつとなにかいつたあと、少年はゆっくりと口を開いた。

「航路を右舷8時の方向に変更、乗組員全員は戦う準備を。戦法はいつもどおり

「了解しました。」

そう言つと、オルカは駆け出した。その背を見送つてから、オルカの報告にあつた場所を見てみた。

確かに2隻の船が寄り添つようにしてあつた。しかし、片方の船の帆には海賊旗の証である、髑髏の絵が大きく描かれていた。

「さて、間に合つかな」

そんな少年・・・・アルガ・ローレライのつぶやきとともに、
船はゆっくりと進路を変え始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3189f/>

蒼海の黒狼

2010年12月3日06時07分発行